学校番号	3037

令和８年度　理科

教科	理科	科目	(学)化学演習	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	2026 チェック＆演習化学基礎　(数研出版)						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次の復習を中心に、より深く化学基礎を学んでいきます。また、発展的な内容も扱うことで、身の回りで起こる化学変化についても理解することをめざします。１年次と同様に、どうしてそのような現象が起こるのか、ということを考えながら授業に取り組んでください。また、後半は問題演習を中心に授業を行います。そのため、必ず自分で復習する習慣を身に付けてください。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】１年次に学習した内容について理解を深める。実物を観察することでイメージとともに各分野の知識を習得させる。
【思考力、判断力、表現力等】身の回りで起こる現象について、粒子のふるまいをもとに考察し、その背景を説明する力及び問題演習を行い、生徒個々の進路実現に対応できる力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】身近な生活の中での課題や、資源の問題、環境問題などの諸課題を考える際に必要な視点の一つとして、科学的な側面から物事をとらえ、その実現性や持続性を主体的に検討し、自ら考え動くことのできる力の育成をめざす。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	物質を研究対象として観察、実験するための方法や器具の基本的操作を習得する。また，得られた結果を自ら理解できる形で的確に記録・整理ができており，探究するための技能を身に付けている。	学習を通じて得た化学に対する情報と方法を元に化学的事象の理解に努めている。起こった化学的な変化から構成物質の性質をとらえるとともに、他にどのような変化が起こりうるかを想像し、その内容を報告，表現している。	１年次に詳しく学んだ化学の基本的な法則を基盤にして物質や化学反応に対しての興味をより高める。身近な現象に対してその発生した理由について化学的な考え方からのアプローチを試みている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	物質の構成と化学結合	物質の構成 物質の構成粒子 粒子の結合	a:化学と人間生活について化学の特徴を捉え、物質の分離・精製の仕組みを理解し、それらの技能を身に着けている。 b:実験などを通して事象の考察や表現をすることができる。 c:化学の特徴に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	考査	考査	提出物 実験レポート
	物質の変化	物質量と化学反応式	a:目に見えない物質の構成粒子の数え方を理解し、それをもとに質量や体積を求める技能を有している。 b:あらゆる事象を化学反応式を用いて表現できる。 c:物質量の概念、化学反応式の有用性を認識し、様々な事象の考察に活用しようとしている。	考査	考査	提出物
2	物質の変化	酸と塩基 酸化還元反応	a:　基本的な酸・塩基、酸化剤・還元剤の性質を理解し、化学式や半反応式を書く技能を有している。 b:反応液の色の変化などから、起こった反応を考え、反応式で表すことができる。 c:酸と塩基、酸化剤と還元剤の組み合わせの反応性の違いについて、興味・関心を持っている。	考査	考査	提出物 実験レポート
	化学基礎演習	問題演習	a:既習内容を理解し様々な問題に対応できる技能をもつ。 b:既習内容を組み合わせながら、化学現象を説明し、問題を考えることができる。 c:基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けており、様々な問題に興味・関心を持ち、取り組むことができる。			

3	化学基礎演習	問題演習	a:既習内容を理解し様々な問題に対応できる技能をもつ。 b:既習内容を組み合わせながら、化学現象を説明し、問題を考えることができる。 c:基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けており、様々な問題に興味・関心を持ち、取り組むことができる。	学習状況確認テスト	学習状況確認テスト	学習状況確認テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度